

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月27日

サル痘：リスクと対策

【松崎雑感】

新型コロナだけでも手一杯なのに、又別なウイルス感染症が出てきたんだって？ やれやれ(-_-;)と思う方も多いでしょう。これは、天然痘や牛痘と同じ仲間のウイルスによる「Monkeypox(サル痘)」です。アフリカ熱帯地域の風土病だったようですが、アフリカ諸国と交流の多い欧州中心に感染が広がってきたというものです。感染した場合の死亡率は一桁%の低い方で、これはアジア以外の新型コロナ死亡率に匹敵するようですが、感染力が低いため、社会的インパクトは低いようです。感染者との性行為などの「濃厚接触」がなければ感染リスクは低いとのこと。

サル痘：リスクと対策

Dhawan M (Department of Microbiology, Punjab Agricultural University, Ludhiana, 141004, Punjab, India; Trafford College, Altrincham, Manchester, WA14 5PQ, UK.) , Priyanka, Choudhary OP. **Emergence of monkeypox: Risk assessment and containment measures** [published online ahead of print, 2022 Jun 22]. *Travel Med Infect Dis*. 2022;49:102392. doi:10.1016/j.tmaid.2022.102392

新型コロナパンデミック中に、新たな感染症が流行を始めた。感染リスクと封じ込め対策について説明する。

サル痘は、中央アフリカおよび西アフリカの熱帯雨林に起源を持つウイルス性の人獣共通感染症で、時々地域外に流行する。

サル痘ウイルスはポックスウイルス科オルソポックスウイルス属に分類される。この科には天然痘ウイルス、ワクシニアウイルス（天然痘ワクチン製造に使われる）、牛痘ウイルスも属している。

サル痘は、1958年に、研究用に飼育されていたサルから2度のアウトブレイクが起きて発見され、命名された。ヒトへの最初の感染例は、1970年に天然痘対策を強化していたコンゴ民主共和国で発見された。

その後、カメルーン、中央アフリカ共和国、象牙海岸、ガボン、リベリア、ナイジェリア、コンゴ共和国でも感染者が発生した。

ナイジェリアで遺伝子解析を行った結果、数例のヒトーヒト感染エピソードが確認された。

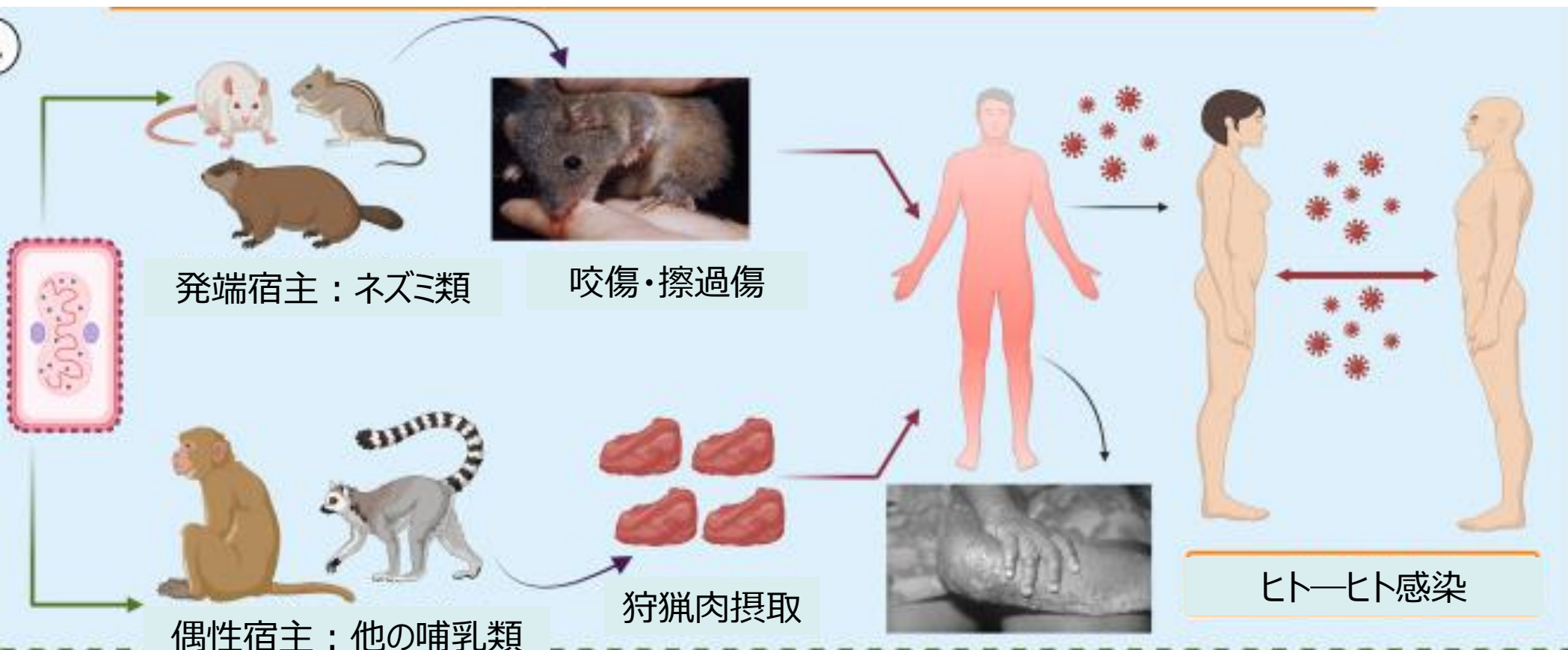
イギリスのヘルスケアワーカー、家族などでも感染が確認された。

ヒトーヒト感染リスクは家族内あるいは看護者に高い。当初サル痘が性行為で感染することは確認されていなかったが、イギリス健康安全保障局は、性的接触で感染する恐れがあるとしている。

感染者との濃厚接触のほかに、衣服、寝具を通じた感染も報告されている（図1A）。

図 1 A

サル痘感染ルート



WHOは5月20日に80名の患者が確認されており、さらに50名が調査中であると報告した。

イギリスでは、これまでに50名以上のサル痘患者が報告されており、新型コロナウイルスパンデミック中の新たな公衆衛生上の問題として浮上してきた。

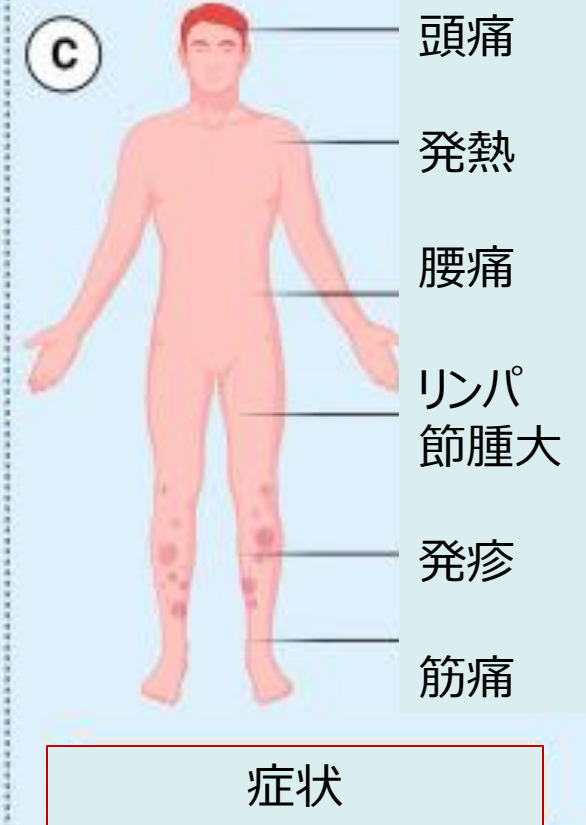
ドイツ、ベルギーなど多くのヨーロッパ諸国でもサル痘患者が増えている（図1 B）。

6月16日現在、世界全体で2039例が診断されている。

サル痘は軽症のことが多く、通常数週間で治癒する。発熱、発疹、リンパ節腫大などの症状が現れる（図1 C）。

図 1 B & 1 C

サル痘流行地



死亡率は地域で異なり、欧州CDCによれば、西アフリカの流行種では3.6%である。

小児、若者、免疫低下疾患を持つ人々では死亡率が高い。

イギリスの一般住民に対する危険は極めて少ない。

イギリスのヘルスケア施設では、これらの熱帯性疾患の専門的治療を行うことができる。とサザンプトン大学の研究者は言明している。

しかし、「発展途上国」ではそうはいかない。熱帯性感染症の流行は世界の多くの国にとって大きな負荷をもたらす。

パンデミックの最中に、ラッサ熱、エボラ出血熱、サル痘などの、これまでにほとんど経験のなかった危険な地域的あるいは世界的流行が起きる怖れに常に注意を払う必要がある。

サル痘の予防のためには、感染の危険因子と感染防止対策を人々に周知することが重要である。

どのようなワクチンが効果的であるかどうかは現在研究中である。

サル痘患者に最前線で接触するおそれのある臨床検査、外来医療および入院医療担当者に対するワクチン接種を検討している国もある。

現在の流行リスクの現状を考慮すると、サル痘の影響を軽視してはならない。

世界全体でのサーベイランスが決定的に必要である。

サル痘を使ったバイオテロリズム対策を検討してきたアメリカなどの国では、天然痘ワクチンとある種の抗ウイルス薬がサル痘に有効であるとされている。

サル痘の流行を防ぐうえで、患者と（濃厚）接触のある人々に対するワクチン接種（包囲的ワクチン接種戦略）が有効とされている。